

第 10 回中東情勢/実務セミナー実施報告書

1. 事業名：「中東情勢/実務セミナー」
2. 場 所：ホテルグランドアーク半蔵門
3. 実施日：平成 28 年 6 月 8 日（水） 15：30 ～ 17：00 講演（質疑応答含む）
17：00 ～ 18：00 懇談会
4. 演 題：「イラン商い（投資）概況」
5. 講 師：一般財団法人中東協力センター 審議役 大田 治穂
6. プログラム：開会挨拶、講演（60 分）
質疑応答（20 分）
懇親会

7. 講演骨子：

今回のセミナーは、イランとの今後の商い（貿易・投資）を考える上で欠かせない現在のイラン経済および現地事情等について、現地駐在および豊富なビジネス経験のある弊センター大田審議役が講演を行った。

講演は大きく分けて 3 つ、①イラン経済の現状、②イラン投資環境、そして③日本・イラン関係について自身の経験も踏まえて、下記の説明が行われた。

イランに対する金融制裁の強化が 2011 年後半から厳しくなり、その結果、以降 2 年間は GDP 成長率がマイナス、インフレ率も 30%を超えた。主要国内産業である自動車生産台数もピーク時の年間 160 万台が 100 万台を切った。制裁後国内の為替レートが、大きな格差を生む市場レートと公定レートの 2 重レートに変わった。この差を埋めるために途中から CBI（中央銀行）レートが導入され、公定レートは 2013 年 7 月に廃止された。通貨下落の不安から国内資金が為替・証券市場に流入し、その結果バブルが生じ、そして崩壊へとつながった。また前政権の政策により国内銀行の多くが不良債権を抱える事態に陥っており、さらに原油価格の下落が政府財政を悪化させている。他方、輸出収入が減る一方で、VAT 導入や法人税の増額で 2016 年度の一般歳入は 2 年前と同レベルである。イランは国営企業の民営化を進めており、特に化学製品企業の民営化が多い状況だが、民営化後も、社長をはじめとする幹部は国営時代と同じ顔ぶれであり、不透明部分も多い民営化となっており、取引を行うにあたっては、財務体質等しっかり調べる必要があり慎重さが求められる。

投資環境については、イランは資源国として世界で原油 4 位、ガス 1 位の埋蔵量を誇る。人口 8 千万の中東最大規模のマーケット、中継国として地理的なメリット、そして多くの世界遺産、残された最大の市場ともいわれる魅力をもっている。一方、リスクも多く抱えており、まだ一次的制裁が解除されていない現状、地政学的（周辺国との軋轢）、内政面、国内経済の疲弊、決済関係などがある。イランでは貿易もプロジェクトも歓迎されるが、大きな課題は常にファイナンスを要求されることである。ま

た、イラン側の二重為替の結果、イラン側客先及び現地法人の負担が多く約 15%のロスとなるため競争力が削がれることが挙げられる。

このような状況の中、2015年7月の歴史的合意以降、日本政府は経産省副大臣、外務大臣のイラン訪問そして2016年2月には投資協定が締結され、ファイナンスファシリティをつけている。リスクはあるものの、イランは今後飛躍的に伸びる可能性のある魅力的な市場であり、貿易・投資ともファイナンスが鍵となり、官民合同、個社でなく業界のファイナンスファシリティの活用およびイランからの石油輸入を増やし、万が一の時に相殺ができるようにすることなどによるリスク回避が考えられると説明した。

講演後の質疑応答では、イランの電力需要そして電力事業で ODA ができることについて質問があがった。この質問に対しては、イランでは電力はガス使用が多いが、できるだけ輸出にまわして外貨を得たいと考えているため、新エネルギーや再生可能エネルギーに力を入れたいという意向がある。したがって、技術面での事業開拓に可能性があるとの見解が講師から示された。また、カントリーリスクを考える上で、イラン人は契約したことを履行するのかという問いについては、契約が纏まるまではごねるが一度契約を交わしてしまえば遵守する人たちであると回答し、講師自身のビジネス経験でオイルスキームの費用を回収したケースに触れ、制裁下の状況の中でも返済努力を続け 2013 年に完済した例を挙げた。工場を立ち上げているある企業からは、現在国内の銀行が不良債権を抱えている中、倒産しそうな銀行はあるのかとの質問があがった。この質問に対しては、民間の小規模な銀行が 2000 年以降多く設立され、いろいろなプロジェクトに貸し付けを行った結果、その一部が焦げ付いているのが実情である。経済の好転、融資がなければ倒産する可能性があるとの見解が示された。

<成 果>

講演後に実施したアンケートの結果、参加者の皆様より高い評価を頂いた。講演について、「マクロ等のデータを見ているだけではわからないイラン進出における課題などを伺うことができ、参考になりました。」「個人的なお考えも含め、ご経験に基づきお話が伺え、非常に勉強になりました。」「ご駐在のご経験に基づき、非常に分かり易いご説明で、有益な情報を得ることが出来ました。」など有益であったとの感想が多く寄せられた。

今後のセミナーのテーマ設定については、引き続きイラン関連のセミナーを開催して欲しいという回答が多く、保険事業、交通、医療など産業別テーマから、商流、欧米諸国の動向など広範囲にわたりイランに対する関心の高さが伺えた。今後のテーマ設定の参考としたい。

